

How To Make [Rosetta]

はじめに



Onepiece: [A] type

この冊子では、Aタイプの長袖・チュールレース衿でのデザインを基本にワンピースの作り方をまとめています。

今回はページ数を増やし、基本的なテクニックも出来る限り解説を入れましたので、初心者の方にも挑戦していただけたら嬉しいです。

袖のパーツが多いため少し時間がかかりますが、適した素材で丁寧に作れば、形に出来ると思います。

Bタイプのフレンチスリーブ（半袖）は工程が少なく、長袖よりも手軽に作れますので、まずは半袖から初めてみるのもおすすめです。

Bタイプで作る場合は工程40～70を飛ばし、20ページの「フレンチスリーブ+綿レース衿の作り方」に進んでください。

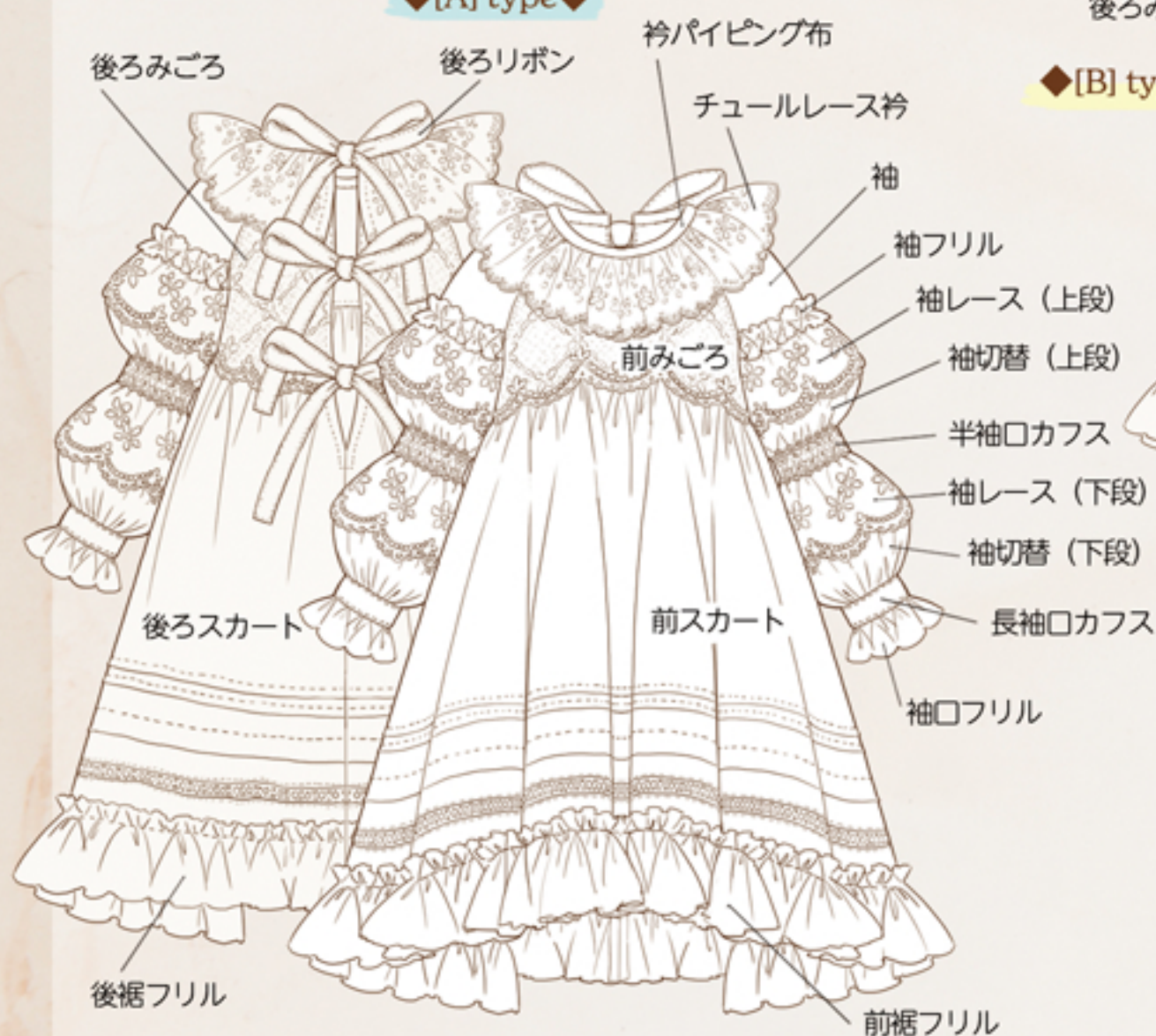
「ギャザーをよせて何cmに縮めるか」、「ピンタックなどステッチ幅」「ゴム上がり」などの寸法は、すべてパターン上に表記してあります。裁断を終えてもパターンは捨てず、作業中いつでも確認できる場所に出しておいて下さい。

作り方の手順は全サイズほぼ同じですが、使用するパーツの数や仕様が一部違いますので、ここにまとめるピース構成で確認してください。

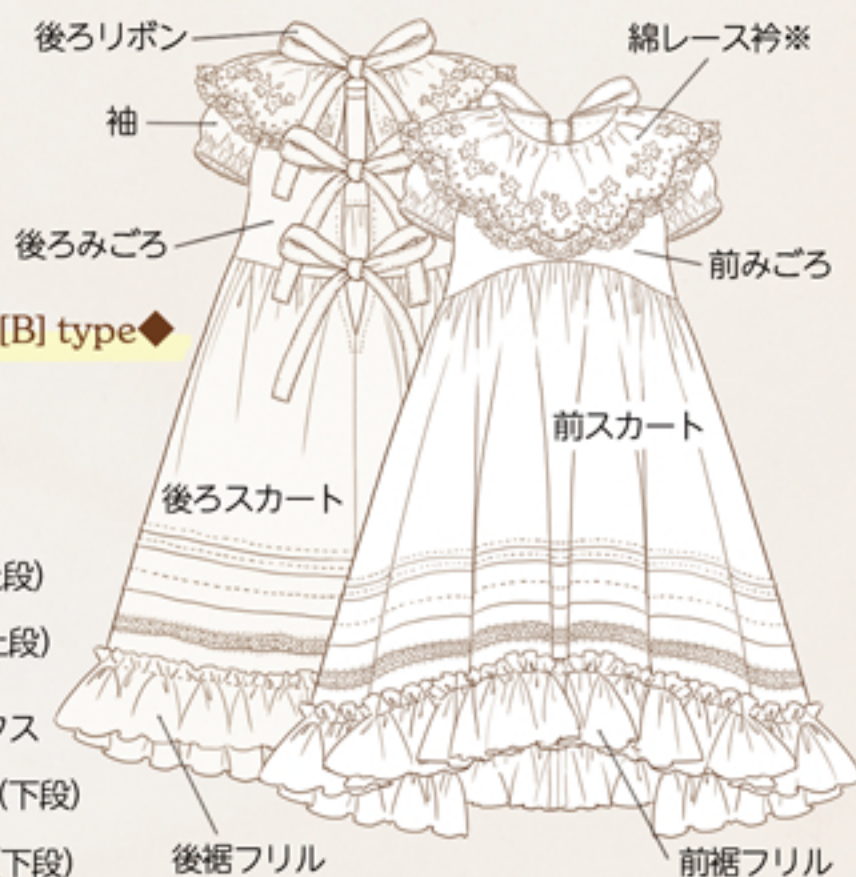
SD size

RosettaワンピースSDサイズ
基本の構成です。

◆[A] type◆



◆[B] type◆



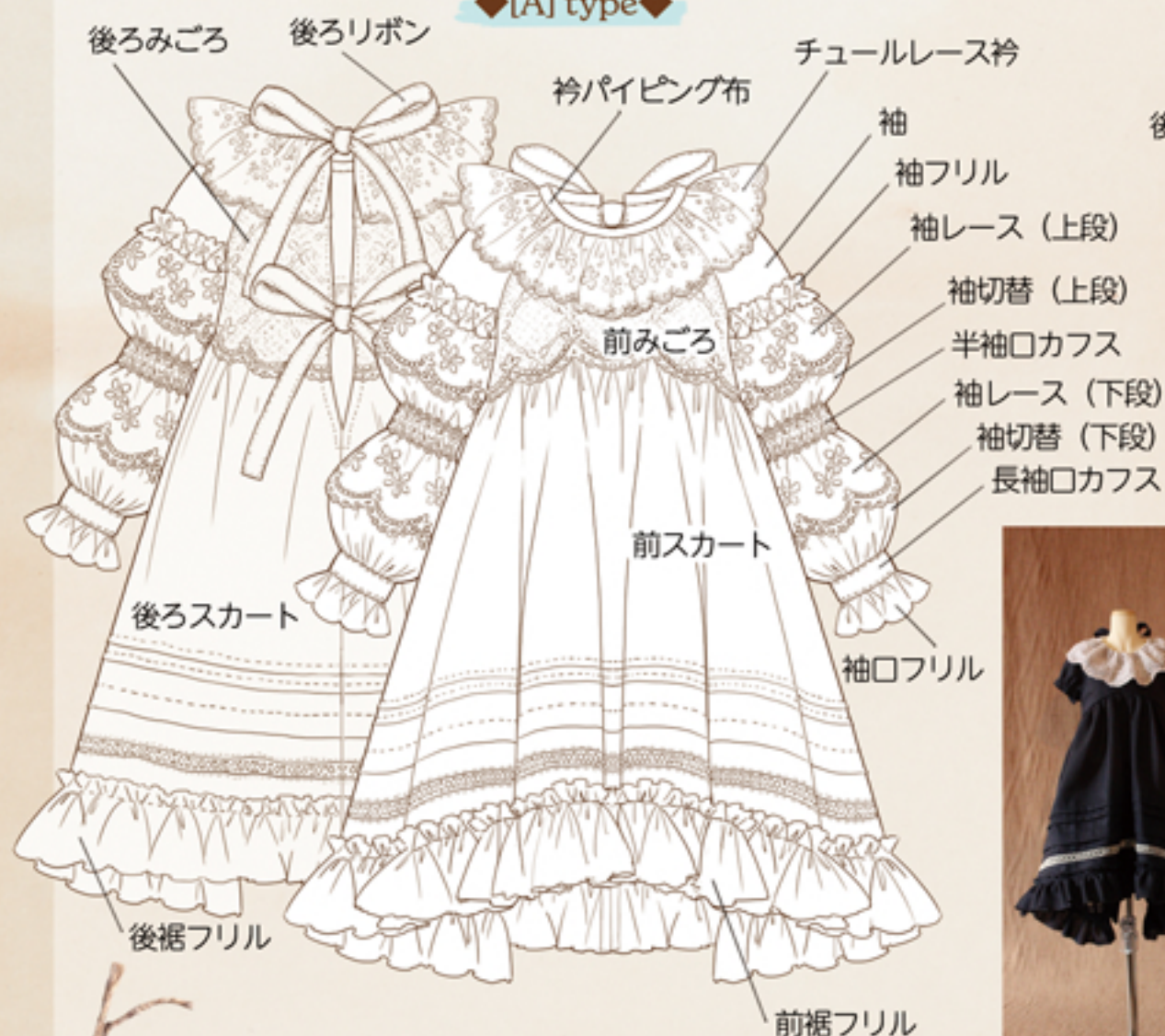
※SDサイズのみ、綿レース衿の周りに
トーションフリルレースを追加しています。



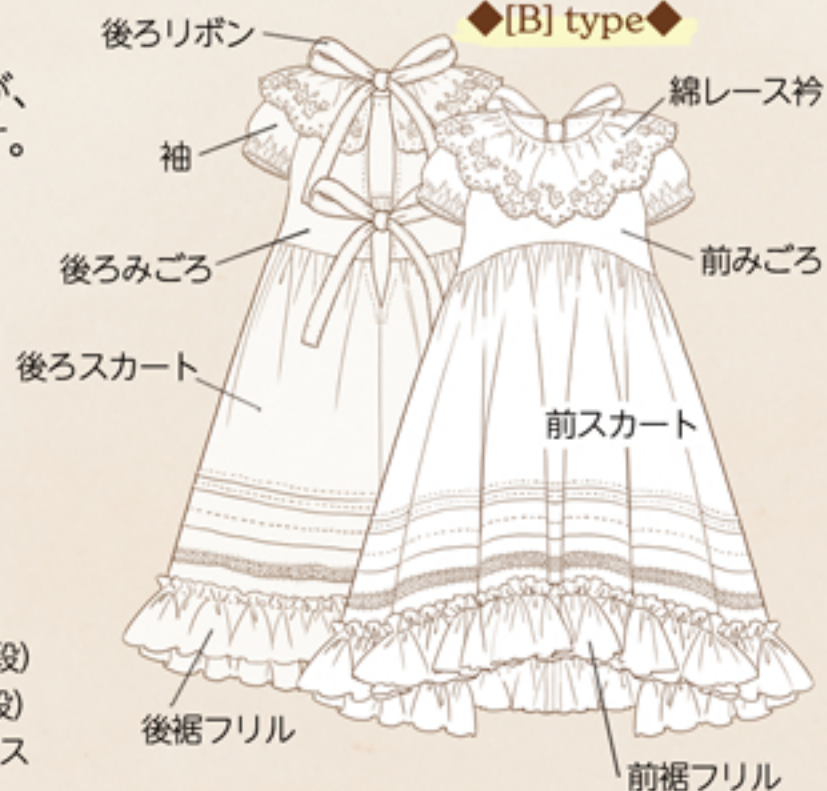
SDM size

SDM (MSD) サイズです。
パーツの構成はSDサイズとほぼ同じですが、
後ろあきのリボンは2組 (4本) になります。

◆[A] type◆



◆[B] type◆



SDMサイズの写真のサンプルは、スカート丈が長袖と半袖で少し違いますが、収録しているパターンは紺色の半袖タイプの丈 (ロング足ボディで少し膝が見える長さ) になります。長めにしたい場合は、スカートのウエスト側に平行に1.5cm追加することで、白い長袖タイプのスカート丈にアレンジできます。詳しくはパターン紙面に記載していますので、参考にしてください。

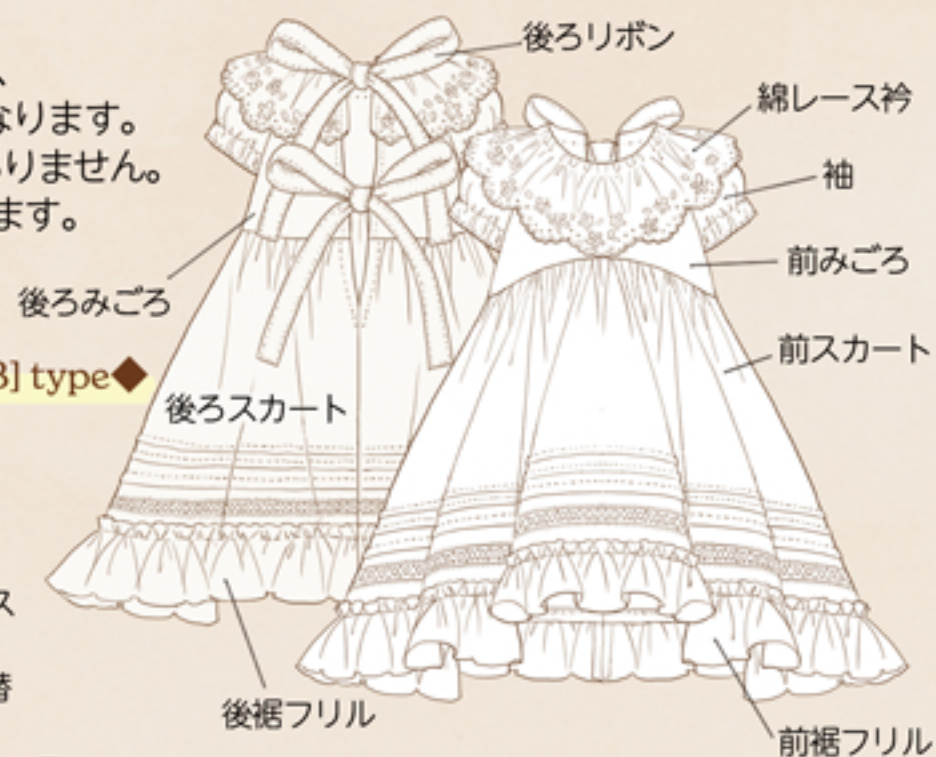
YSD size

幼SDサイズもSDMサイズと同じく、
後ろあきのリボンは2組 (4本) になります。
※袖パーツの衿ぐりのギャザーはありません。
袖の切替は1段のみで長袖丈になります。

◆[A] type◆



◆[B] type◆



↓幼SDサイズは、スカートにレースを1列追加しています。



Rosetta A: 長袖ワンピースの作り方

How to Make Onepiece



ぬいはじめる前に

裁断・芯貼り・しるしつけを行います。裁断の方法については、パターンの1枚目を参照してください。
生地は裁断の前に、必ず地直し（アイロンがけ）を行い、綿のレースは出来るだけ水通しをしてください。
芯地は、ざらざらの面にのりがついていますが、のりの面を下にして生地裏面に付くように重ねて、その上にオープンシートを乗せて、紙の真上から低温でアイロンを強めに押し付けて、しっかりとのりを溶かして接着させます。
芯を接着することで生地が若干収縮するので、完全に熱が冷めて生地が落ち着いてから、裁断します。

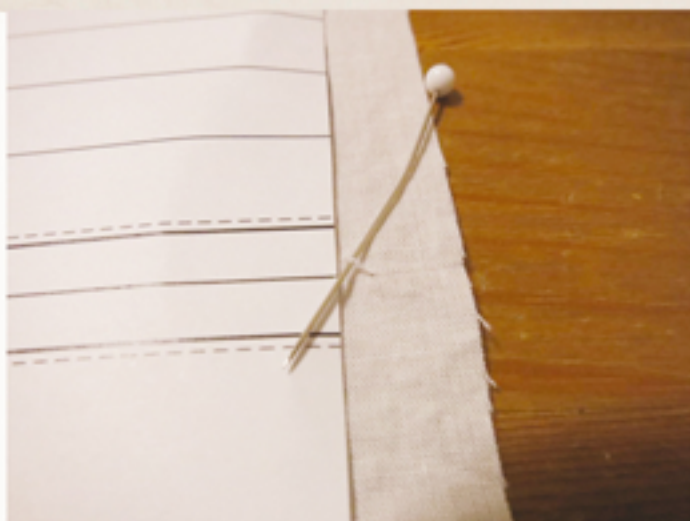
オープンシート



芯地

生地(裏面)

1



スカートにはしごレースとピンタックを入れます。まず粗断ちパターンで裁断し、ピンタックの折山線と、はしごレースつけ部分の生地カット位置にあたる横糸を、針を使って引き出します。

2



※抜きにくい場合は、ヘラやチャコペンで線を入れてもOKです

横糸が引き出せたら、少しずつ引っ張って抜きます。途中で切れたら再び針ですくって引き出し、端から端までまっすぐの線が見えるようにします。この線を印にしてピンタックとレースを入れます。

3



はしごレースを付けます。表面を上にし、レースつけ部分のカット位置を裁ち落としながらロックミシンをかけます。裁ち落としした側も使用するので、同じく表面を上にしてロックをかけておきます。

4



ロックをかけた辺と両山トーションレースを中表に重ねて、0.5cmのぬいしろでぬい合わせます。

5



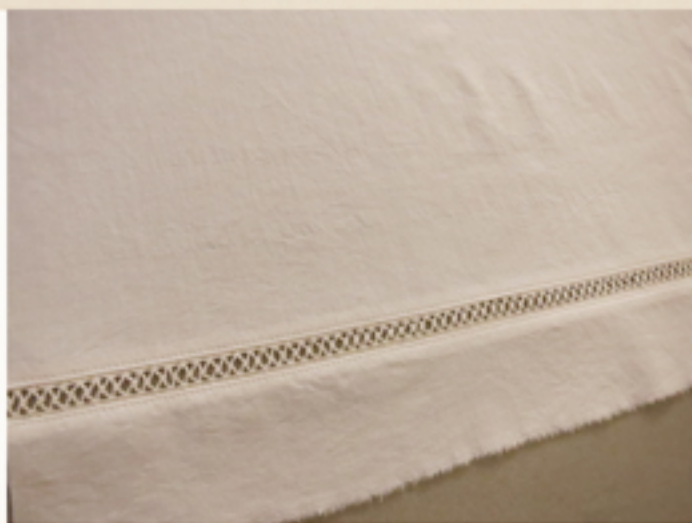
レースが付いたらアイロンでぬいしろを生地側に倒します。ロックミシンで裁ち落としした下側も同様に、レースの反対側と繋ぎ、ぬいしろを生地側に倒してアイロンをかけておきます。

6



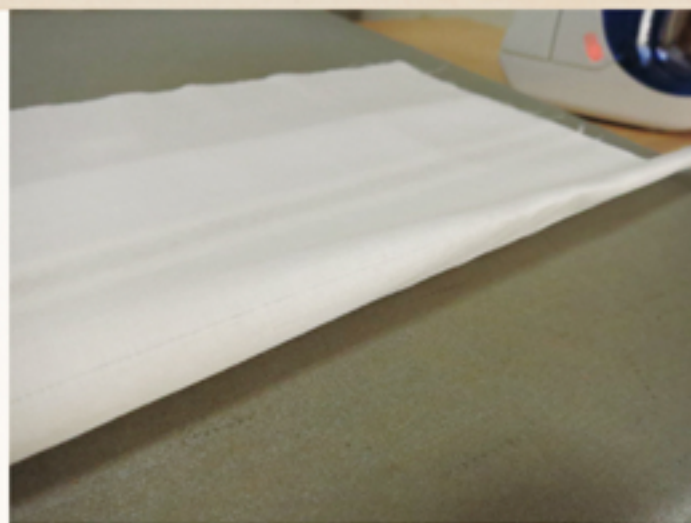
はしご状にレースが付いたら、表からコバステッチを入れておさえておきます。「段付き押さえ」があると便利です。

7



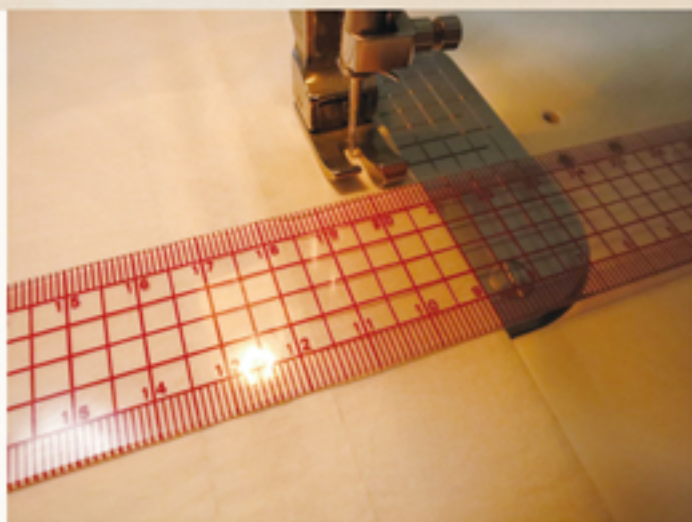
はしごレースが付いた状態です。生地にしわが残らないように、しっかりアイロンをかけておきます。

8



ピンタックを下段から1本ずつ順に入れていきます。折山位置で山折りにして指で軽く折り目をつけてから、アイロンで折り目をしっかりと付けます。

9



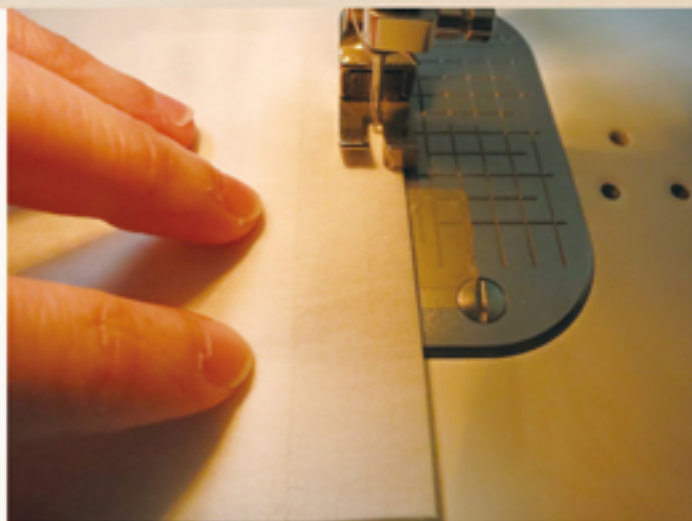
折山から平行にミシンをかけます。ここは後でタックを倒すときに表に出る方を上にしてミシンをかけるときれいです。針目は1.5～2.0mmくらいで、折山に右手を添えながら、ゆっくりと進めます。

10



ミシンをかけたらずに広げる前にアイロンをかけて、ステッチ目と折山をまっすぐに落ち着かせます。それから、ピンタックを倒し方向に倒して、裏側からアイロンをしっかりとかけます。

11



2本目以降も同じように折山を折り、折山と平行にステッチを入れてアイロンがけ、を繰り返します。ミシンは表側からかけることと、正面に座り姿勢を正して、ゆっくり丁寧に進めることが大事です。

12



2本入った状態です。今回のデザインは細いピンタックが2本、太いたックが1本、合計3本のピンタックが入ります。

13



3本入った状態です。多少歪んでいてもここから裁断するため形には影響はないので、大丈夫です。最後にもう一度アイロンで、ぴしっとさせておきます。

14



ピンタックとレースが入ったら、ピンタックの位置を合わせてスカートを裁断します。後ろ中心と脇のぬいしろにはロックミシンをかけておきます。

15



みごろのレース地の裁断には、裁断したみごろのパーツを型紙として使うと良いです。上にのせるとレースの柄が透けて見えるので、柄の出方を確認しながらとることができます。

16



表みごろとレース地はぴったり重ねてずれないように、周りのぬいしろ上にミシンをかけておきます。このときのミシン目は4.0mmくらいの粗目でOKです。

17



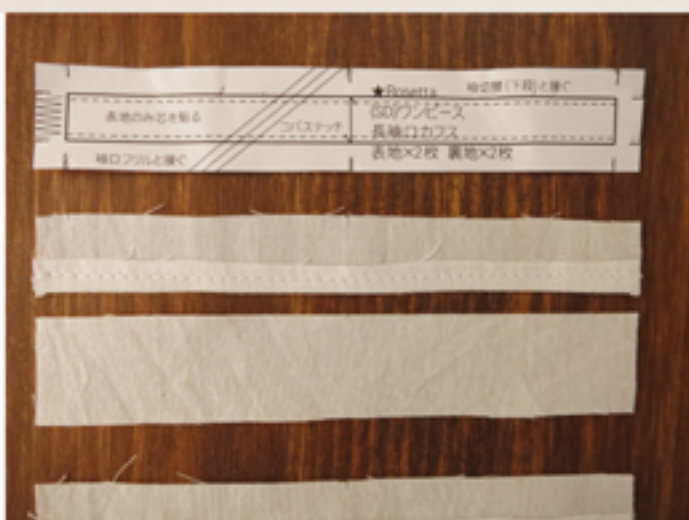
みごろの裏地の袖ぐりとウエストのぬいしろを二つ折りにして、ミシンで押さえておきます。（ミシン目は2.0mmくらいで。）カーブ部分は切込みを入れてからアイロンをかけるときれいに折れます。

18



表みごろにレース地を重ねて、ぬいしろ上にミシンをかけた状態と裏地のぬいしろを二つ折りにしてミシンで押さえた状態です。低温のアイロンで形を整えておきます。

19



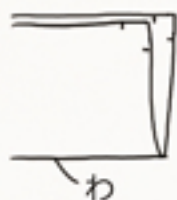
カフスの裏地のぬいしろの片側（袖切替に接ぐ側）は、二つ折りにしてアイロンをかけ、ステッチを入れて押さえておきます。

20



袖切替の、レースと接ぐ側のぬいしろにはロックをかけて、二つ折りにしてアイロンをかけておきます。

21



袖口フリルは二つ折りにしてアイロンをかけておきます。

22



袖のパーツ（生地）が揃った状態です。袖切替・カフス・フリルには前後がありませんが、上段と下段ではサイズが違います。レースと接ぐ向きも間違えやすいので注意してください。

23



後リボン結び用のリボンをつくります。写真のようにアイロンで出来上がり線に折り目をつけたら、端を開きます。

24



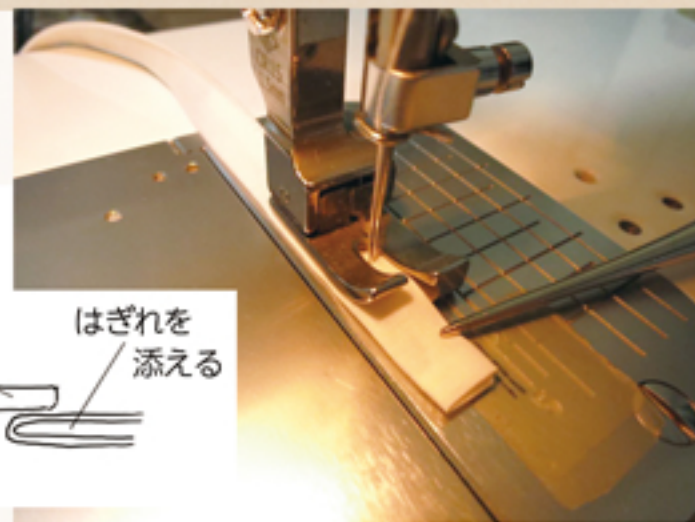
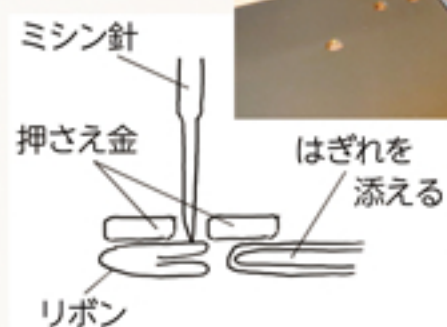
角のぬいしろがはみ出さないように、一度開いて写真のようにぬいしろをつまみ、中へ折りなおします。

25



写真のように、短い辺を折った後で長い辺を後から折り込むことで手を放してもぬいしろが開かなくなり、このあとのコバステッチをかけやすくなります。

26



リボンの周囲を開く方からコバステッチをかけます。段付押さえがあると便利ですが、無い場合は生地4枚分の厚みのはぎれを添え、押さえ金との隙間をなくすと、角もきれいにステッチが入ります。

27



リボンは6本(SDM・幼SDサイズは4本)同じように作り、アイロンをかけておきます。

28



レースを裁断します。袖のレースはスカラップ柄が左右で対称になるように気を付けて切り分け、余分なところは切り落とします。衿レースの切り落とし分は、後で装飾に使うので残しておきます。

29



レースを裁断したら、SNPやCFなどの合印になるポイントに、色糸などでしるしをつけておきます。きりじつけは後で抜きやすいように、本縫い部分 avoiding 入れておくといひです。

30



衿レースの後ろ端を三つ折りして、ステッチでおさえておきます。

31



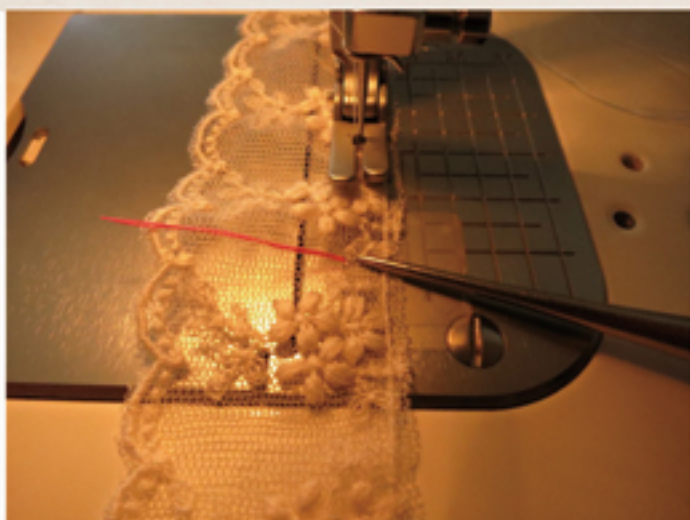
衿レースにギャザーを入れます。ミシンの糸調子を少し強くしてミシン目を4.0mm幅くらいにセットし、レースの表面を上にして、返しぬいはずに端から平行に2~3mmの所にミシンをかけます。

32



ぬい終わりも返しぬいはしないで、糸端を5cmくらい残してカットします。

33



先にかけた1本の横に、平行に5mmくらいのところにもう1本同じようにミシンをかけます。返しぬいしないで、同じように糸端を残して切ってください。

34



ギャザーよせ用のミシンが2本入った状態です。ギャザーよせミシンをかけ終わったら、ミシンの糸調子と針目は元の大きさに戻しておきます。

35



ギャザーよせをします。1本目と2本目どちらも片側の端の上糸（表面から出ている糸）を、目打ちなどを使ってとり、2本をあわせて抜けないように2~3回固結びをします。

36



裏面から出ている糸はそのままにしておきます。

37



結んでいない方の表面からの糸をとり、少しずつ引っ張るとギャザーがよります。2本が均一に縮むように整えながら糸を引きます。

38



ぬいつける箇所の寸法（パターン参照）に縮めたら、引っ張っていた糸の端も結び、余分な糸は切っておきます。このミシン糸は後で抜くので、裏側の糸は結ばずにそのままにしておいてOKです。

39



指定の寸法までギャザーをよせたら、中心の位置などを確認し、ギャザーが均一になるように、平らな机の上に置いて形を整えます。

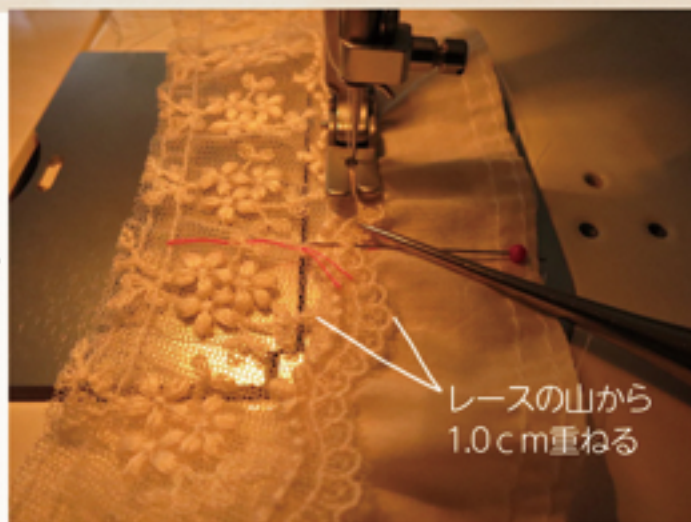
40



袖切替と袖レースは
上段（五分袖まで）と
下段（長袖まで）の2種類
あり、大きさが違うので
注意してください！

同様に「袖レース」と「袖切替」にもギャザーを入れておきます。「袖切替」の「袖レース」と接ぐ側は、ぬいしろを二つ折りした状態の上にギャザーを入れます。（カフス側はまだ縮めません。）

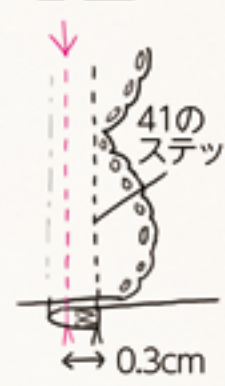
41



レースの山から
1.0 cm重ねる

「袖切替（上段）」と「袖レース（上段）」を接ぎ合わせます。レースと袖切替が1 cm重なるように合印を合わせてピンでとめたら、切替布の端から0.5 cmくらいの位置に表側からミシンをかけます。

42



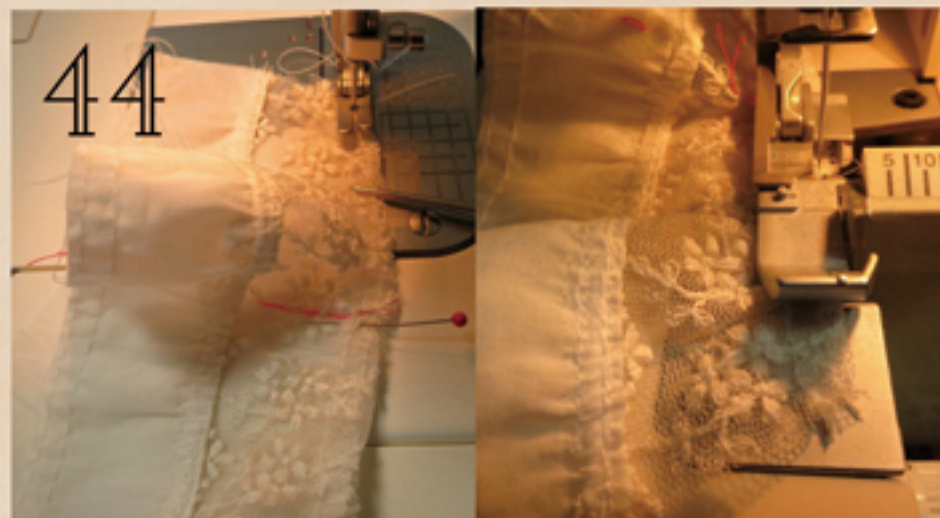
41でかけたステッチから0.3 cmくらい平行のところにもう一本、レースの上からステッチを入れます。切替布のコバに入ればOKです。

43



「袖」と、「袖切替（上段）」+「袖レース（上段）」の部分を繋ぎます。袖レースのギャザーを指定の長さまで縮めたら、袖の切り替え位置と中表に重ねて、中心と端をピンでとめます。

44



ギャザーが入ったレース側を上にしてぬいあわせ、ギャザーよせ糸を抜いた後、ぬいしろにロックミシンをかけます。ぬいしろは「袖」側に倒すので、レース側を上にしてロックをかけると良いです。

45



ロックをかけたらぬいしろを袖側に倒して低温のアイロンで軽く整え、表面からコバステッチを入れておきます。※アイロンが高温だと、レースが溶けることがあるので注意してください。

46



左右とも作っておきます。「袖」パーツには前後の違いがありますので、前側の目印を確認して、表裏を間違えないように気を付けてください。下段のレースと袖切替も同様に作っておきます。

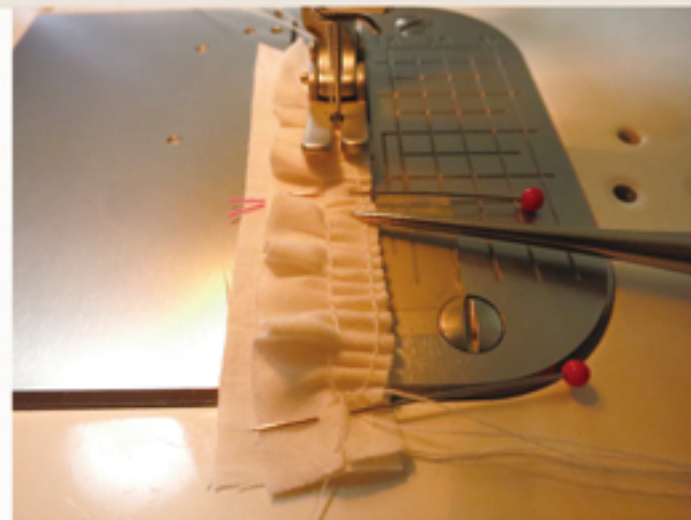
※ギャザーよせミシン糸は、接ぎ合わせができたなら抜きます。リッパーなどで上糸端の結び目を切り、目打ちで引っ張ると抜きやすいです。

47



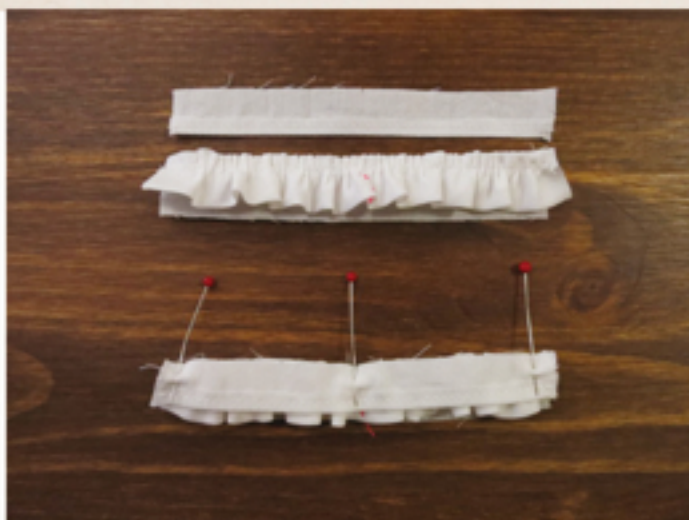
長袖口のカフスを作ります。袖口フリルにギャザーをよせて、袖口カフスの表地（裏面に芯地を貼ったもの）に重ねて中心と両端を合わせてピンでとめます。

48



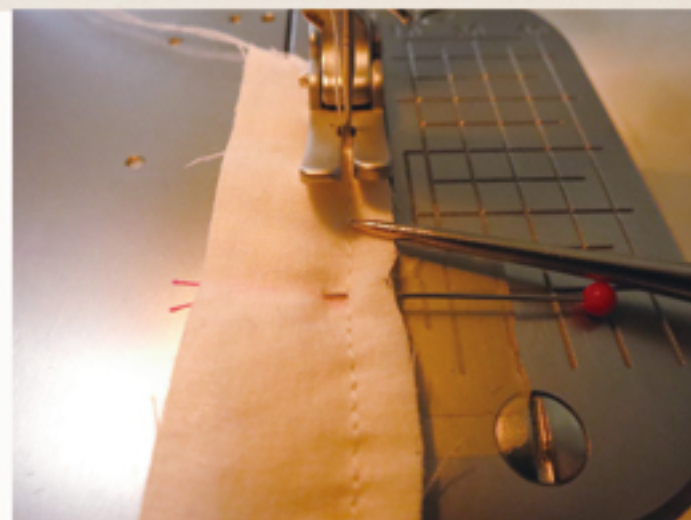
フリルのギャザーが見える方を上にして、ギャザーを整えながら、ぬいしろ端から端までぬい合わせます。ギャザーよせの糸はまだ抜かないでおきます。

49



カフスの裏地を付けます。48で付けたフリルをはさむように、裏地を中表に重ねて、中心と両端をそろえてピンでとめます。

50



裏地は下側になるように置いて、48のフリルを付けたぬい目の上から、端から端までミシンをかけます。裏地・フリル・表地をいっしょにぬい合わせている状態です。

51



きれいにぬい合わせができていることを確認したら、ぬいしろを半分くらいの幅にカットして、ギャザーよせの糸を抜きます。

52



表に開いて、カフスがまっすぐになるようにアイロンで形を整えます。上側の袖と接ぐ側のぬいしろは、仕上り位置で二つ折りしてアイロンで折り目を付けておきます。

53



袖フリルにギャザーをよせて、袖のコパステッチ上に付けます。このギャザーよせミシンは1本で、フリル巾中心より1mmずらした位置に入れ、横に沿ってミシンでたたきつけます。

54



ギャザー糸を抜きます。今回は針穴が目立たないように1本で入っていますが、2本で寄せる方が均一に入れやすいと思います。後で抜きやすいように、ギャザーミシンをよけてぬいつけるのがコツです。

55



袖のパーツを揃えた状態です。長袖口カフスにはフリルが付いています。半袖口カフス表地は出来上がり位置で折り、アイロンをかけておきます。

56



※幼SDサイズは、
ここでフリル付き
カフスと接ぎます

半袖口カフスと袖切替上段を接ぎます。袖のカフス付け側にギャザーをよせて、半袖口カフス（表地）を中表に重ねてピンでとめます。

57



ぬいしろ端を揃えて、カフスの折り目にそってぬい合わせます。ギャザーよせの糸はまだ抜かないでおきます。

58



57でぬい合わせたラインの裏側からカフスの裏地を重ねて、カフス表地と裏地のあいだに袖をはさみこむようにしてピンでとめます。

59



カフス表地側を上にして、57でぬったステッチの上からもういちどミシンをかけて、カフス裏地を端から端までぬいあわせます。

60



表に広げてみて、きれいにぬい合わせができたことを確認したら、ぬいしろの幅を半分くらいにカットし、ギャザーよせ糸も抜いておきます。

61



半袖口カフスが付いた状態です。ぬいしろをカフス側に倒し、アイロンで形を整えておきます。カフスの下側はまだひらひらと開いた状態になっていて、ここから下段を接ぎます。

62



「袖切替（下段）」と「袖レース（下段）」も上段と同様に、ギャザーをよせてレースを接いだら、カフスとの切替位置のギャザーを指定の長さに縮めておきます。

63



「半袖口カフス」表地と袖レース（下段）を中表に重ねて、両端と中心をピンでとめ、カフス側を上にして折り目にそってぬい合わせます。

64



ギャザー糸を抜き、低温のアイロンで軽く整えたら、裏地側でぬいしろをカフスの中に隠し、まつりぬいでおじます。

65



左右とも同じように接ぎます。上から、レース・切替布・カフスの順に繋がります。下段パーツのギャザー上がりはレースも切替布も同じ寸法なので、接ぎ順を間違えないように気を付けてください。

66



長袖口に、フリル付きのカフスを接ぎます。カフス表地側を中表に重ねて、両端と中心をピンでとめてカフス側を上にして、折り目にそってぬい合わせます。

67



ギャザー糸を抜き、ぬいしろをカフス側に隠して、裏地をまつりぬいでおじます。

68



半袖口カフス部分の表面に、レースをたたきつけます。レースの両端をコバステッチで付けます。手縫いでもOKです。

69



袖のパーツがすべて繋がった状態です。

70



袖口のカフスには、好みで表からコバステッチを入れておきます。

71



えりぐりのギャザー箇所ギャザーミシンを入れ、指定の寸法に縮めて上糸の両端を結び、ギャザーを整えてアイロンでつぶしておきます。（※幼SDサイズには、このギャザーは入りません）

72



袖パーツと表みごろを中表にぬいあわせします。袖は前側の目印がある方は前みごろに、反対は後ろみごろのそでぐりに、合印を合わせてピンでとめます。

73



みごろと袖をぬい合わせるとき、袖の切替にたたいてあるフリルの端も一緒にぬいこみます。ぬい合わせ後、ぬいしろのカーブ部分に切込みを入れます。

74



ぬいしろはみごろ側に倒し、アイロンをかけておさえ、みごろ側に表からコバステッチを入れます。

75



後ろみごろのリボン付け位置に、リボンを付けます。ぬいしろ端をそろえてピンでとめてから、↑のようにぬいしろ部分にミシンでたたいておきます。

76



後ろみごろの裏地と表地を中表に重ねて、えりぐり端からウエストまで、後ろ端をぬい合わせます。

77



後ろ端を表に返したところです。リボンがはさみこまれ、左右から出ている状態になります。（ここから先、リボンが少し邪魔になりますが、ぬいこまないように気を付けながら作業します。）

78



前みごろの裏地は、えりぐり部分を揃えて表地の裏側に重ねて、えりぐりのぬいしろ上にステッチで押さえておきます。えりぐりだけでくっついている、ぺらぺらした状態です。

79



衿のレースをつけます。みごろの表側に表面を上にして衿レースを重ねて、衿ぐりの前中心、後ろ端、合印を合わせてピンでとめて、しつけをしておきます。

80



ぬいしろは0.5cmで、後ろ端から後ろ端まで、レースをぬいつけます。ミシンでぬったら、しつけの糸は抜き、ギャザーよせの糸はまだ抜かないでおきます。

81



パイピングをします。衿パイピング布の両端のぬいしろをアイロンで折り、中心を衿ぐりのレースに合わせてピンでとめます。

82

パイピング布の
後ろ端は0.5cm
あけておく



合印を合わせながら、衿ぐりにそってパイピング布を手ぬいでしつけします。ここも、ぬいしろは0.5cmです。

83



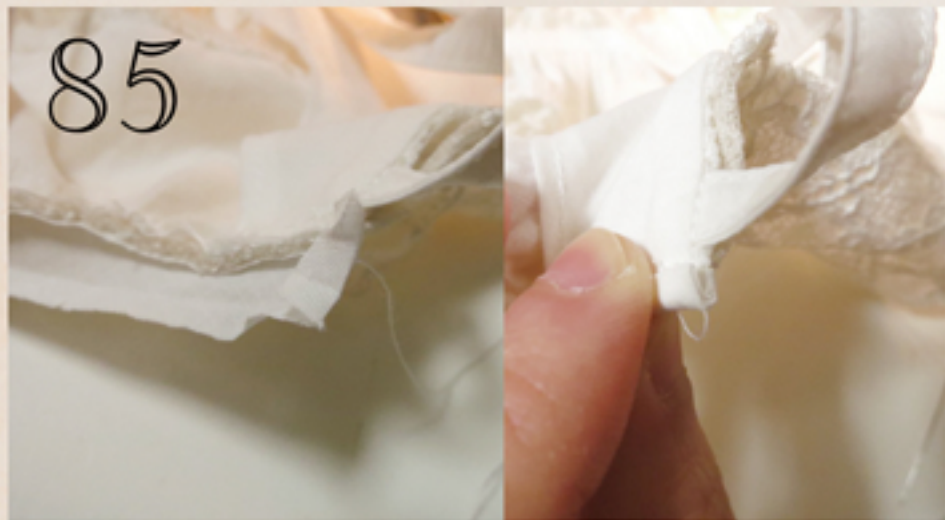
82でしつけした上からミシンでぬいつけます。(ミシンの針目は1.5~2.0mmで。)

84



ぬいしろ幅が0.3cmになるようにカットします。パイピングで包む芯になるので、なるべく幅を綺麗に揃えてください。その後、レースのギャザーよせミシン糸を抜きます。

85



パイピング布の端を内側に折り込み、三つ折りして衿ぐりのぬいしろをくるみます。まつりぬいをするので、折山の内側に玉結びが隠れるように針を刺し、ぬい糸を出します。

86



後ろ端から細かくまつりぬいをスタートして、衿ぐりをパイピング布でくるんでいきます。

87



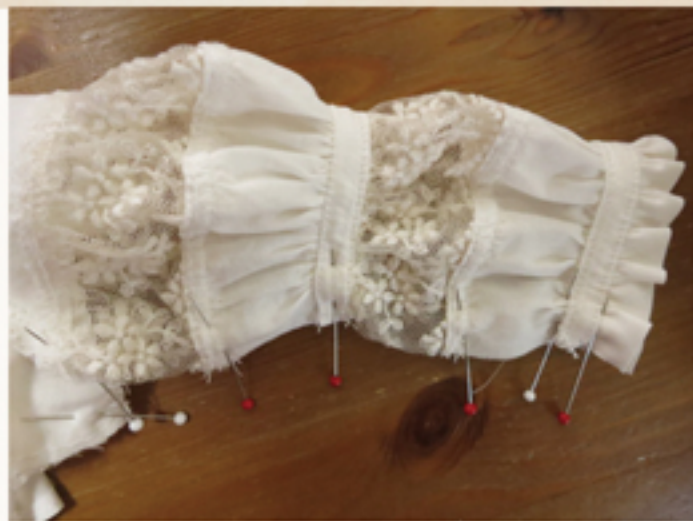
みごろは、なるべく裏地だけをすくうようにすると綺麗です。袖は裏地がないので、表のレースをすくわないように気を付けて、小さくすくってまつると良いです。

88



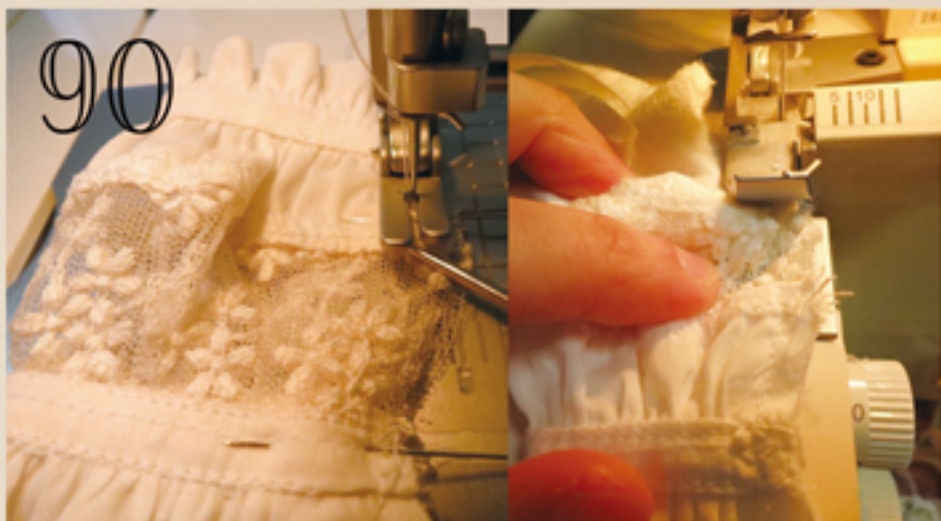
パイピングができた状態です。この後、表から落としミシン（パイピング布とレースの堺に目立たないミシンステッチ）を入れると強度がアップしますが、曲がると目立つので、省略してもOKです。

89



袖下と前後のわきをぬい合わせます。袖口フリルから脇を、前後合わせてピンでとめます。

90



袖口側から袖下を通り、わきまで続けてぬいあわせ、袖部分のぬいしろだけロック始末。ぬいしろは後ろ側に倒すので、前側を上にしてロックをかけると良いです。（わきは割るのでロックを外す）

91



袖口のロックの糸端は1cmくらい残して糸を切り、とじ針でロックミシンの目に通し、隠して始末します。

92



袖部分のぬいしろは後ろ側に折り、みごろわきのぬいしろは割り、低温でアイロンをかけておきます。わきが割りにくい場合は、袖のロックミシン目を少しほどきま。

93



袖口フリルとカフス部分は、ぬいしろが浮かないように、まつりぬいでとめておきます。なるべく表にぬい目が出ないように、裏地だけをすくうと良いです。

94



半袖口カフスの部分のぬいしろも93と同様に、まつりぬいでとめておきます。



みごろの裏地の脇をぬい合わせます。前みごろ後ろみごろの裏地だけをつまみ、中表に脇をそろえてピンでとめ、端から端までぬい合わせ、ぬいしろはアイロンで割ります。

96



輪になった裏地に袖を通し、前袖ぐり～脇～後袖ぐりをまつりぬいでとじます。表地はぬいしろだけをすくい、あまり糸を引きすぎないように、ゆるめにまつると、表にひびかず綺麗に仕上がります。

97



スカート部分を作ります。後ろ中心、前後のわきを中表に重ねて、ピンタックとレースがずれないように合わせてピンでとめ、ぬい合わせます。後ろ中心はあき止まりからスタートします。

98



ぬいしろをアイロンで割り、後ろ中心のあき部分には押さえステッチを入れておきます。

99



裾を三つ折りします。まず、出来上がり線で折り目を付け、角の重なり合う部分の余分なぬいしろは、↑の写真のようにカットしておきます。

100



三つ折りしてアイロンをかけます。角は↑写真のように一边を折ってから、次の辺を三つ折りして、額縁状にします。

101



三つ折りがきちんと折れていれば、直線部分はピンでとめておく必要はありませんが、角は手を離すと開いてしまうので、ピンでとめておく方が良いです。三つ折りステッチは後中心からスタート。

102



目打ちを使って押さえながら、三つ折りステッチを入れます。角は生地が重なるポイントに針を落としてから、ミシンの押さえを上げて、くると向きを変えて押さえを下ろし、再スタートします。

103



裾の三つ折りステッチが入った状態です。額縁上にきれいに角が折れているのが理想ですが、この後上からフリルが付いてくれるので、多少ゆがんでいても大丈夫です。

104



スカート裾のフリル付け位置の合印を、糸で入れておきます。後で抜きやすいように、フリル付け位置より少し上の方に入れると良いです。

105



裾フリル（前2枚、後2枚）をそれぞれ中心・脇で中表にして接ぎ合わせてアイロンでぬいしろを割っておきます。すべて接ぐと↑のような輪の状態になります。

106



長距離のギャザーなので、下糸が途中でなくならないように残量をチェックしてからスタート！

裾フリルとスカートのウエストにそれぞれギャザーミシンを入れておきます。スカートは後ろのあき部分から、フリル布は後中心からスタートして、ぐるっと一周します。

107



裾フリルを付けます。後ろ中心の片側の上糸2本を固く結んでとめ、反対側の上糸2本を少しずつ引き、指定の長さに縮め、ギャザーを整えたら、固く結んでおきます。

108



フリル付け
↓
0.5cm
三つ折りステッチ

裾の三つ折りステッチのラインに沿って、フリルをたたきつけていきます。下のスカートが見えないためミシン目が落ちてしまいやすいので、しつけをしても良いです。

109



スカートのギャザーをよせて指定の寸法まで縮めて、ギャザーを均一に整え、ぬいしろを軽くアイロンで押さえます。表みごろのウエストのぬいしろも、アイロンで出来上がり位置に折っておきます。

110



スカートは表面が見えている状態で、みごろの表地だけを中表に重ねて、後端、わき、前中心、合印を合わせてピンでとめ、しつけをしておきます。（しつけができたらピンは外します。）

111



しつけの上から本ぬいをして、みごろのウエストとスカートをぬい合わせます。スカートのギャザーを整え確認しながら、ゆっくりぬい合わせてください。

112



表みごろとスカートが間違いなくぬい合わせられたら、わきのぬいしろの余分な角をカットし、前みごろのカーブ部分のぬいしろに切込みを入れ、表に返します。

113



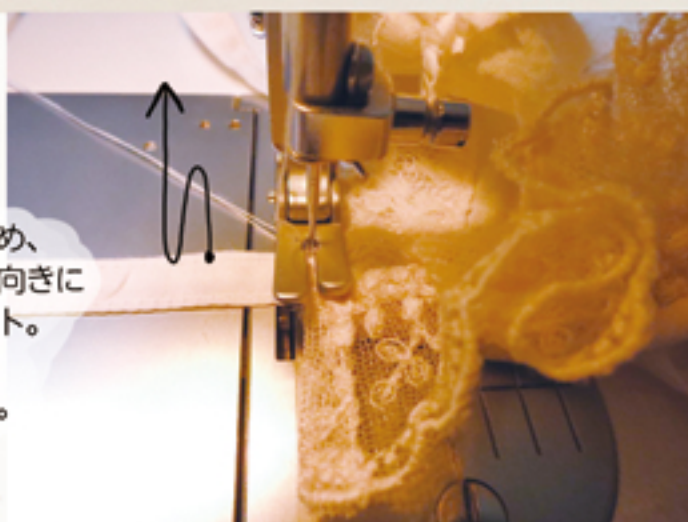
ウエストのぬいしろをみごろ側に倒して裏地の中に隠し、脇・前中心など合印を合わせて、みごろの裏地をかぶせてピンでとめます。

114



みごろ裏地のウエストを、まつりぬいでとじます。ぬいしろ部分だけをすくい、糸を強く引きすぎないように、針目は少しゆるめにまつると良いです。

115



厚みがあるため、進行方向と逆向きに一針目をセット。返しぬいからスタートする。

後端とウエストにコバステッチを入れます。レース衿をめくり、1針目のミシン針を刺したら、返しぬいで3針、前進にし3針、再び返しぬいで5針程度ぬい、針が刺さった状態で押さえを上げます。

116



押さえを上げたらくるっとみごろ本体を回転させ、進む向きを正の位置にもどします。

117



そのまま直進でコバステッチをかけていきます。衿ぐり部分に厚みがあるため、一針目から正の向きだとミシンがかかれませんが、こうすればきれいに端からステッチが入ります。

118



続けて前後ウエスト、反対の後ろ端の衿ぐりまでぐるっとコバステッチを入れます。

119



コバステッチを入れたウエスト切り替え部分に、レースの装飾を付けます。今回は衿レースを裁断したときのチュールレースの切れ端を、スカラップに沿ってカットして使います。

120



レースと同じ色の糸を1本どりで使い、ししゅうをするような感覚で手ぬいで一針ずつ細かく刺していくと、仕上がりがきれいです。

121



全て組みあがった状態です。水通しをしない状態だと、ふわっとしたシルエットです。水通しをするとシワが入り、ギャザーが落ち着き、すっとしたAラインになります。好みで行ってください。→

122



※あらかじめ水通しをしていないレースを使用している場合は、レースが縮んでしまうため、この水通しはおすすめできません。ご注意ください！

簡単な水通しの方法です。ドレスより大き目の桶に水をたっぷり用意し（お湯は縮むので×）ドレスを入れ全体が湿る程度に濡らし、なるべく絞らずに、大き目のタオルの上にそっと広げます。

123



タオルで挟み、そのまま軽くロール状に丸め、手で押して脱水します。強く押しすぎないように、やさしく揉む程度で大丈夫です。

124



脱水したらラップでくるんだドール用ハンガーにかけて、丁寧に手でしわを伸ばし、形を整えて室内で干します。ドール用ハンガーがなければ針金などで作り、念のためラップでくるんで使用します。

125



綿ローンなら、だいたい丸一日で乾きます。

126



ビーズや、リボンなどの装飾は、水通しによって色落ちや形崩れの心配がありますので、最後に行ってください。これで完成です。

フレンチスリーブ+綿レース衿の作り方

How to Make Short Sleeve

綿レース衿の場合、衿ぐりを見返し仕様にするので、パターンのカットラインがパイピングの仕様の衿とは違いますので気を付けてください。袖部分は、「袖」パーツのみを使い、表地と裏地2枚ずつ裁断します。

衿をチュールレースにする場合は、衿ぐりをぬわずに5まで進め、みごろを表に返してから衿つけを行います。



1

※SDMサイズです

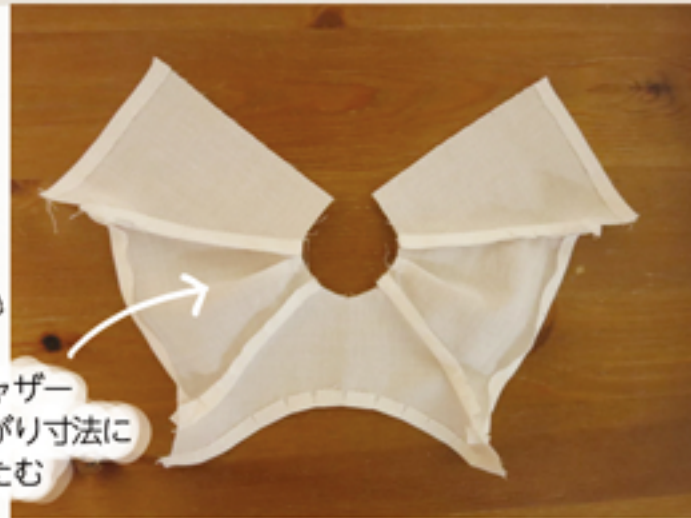


表地：袖の衿ぐりのギャザーをよせて縮め、前みごろ、後ろみごろと中表にぬい合わせ、ぬいしろに切込みを入れ、みごろ側に倒します。（コバステッチは不要）後みごろにリボンも付けておきます。

2



ギャザー
上がり寸法に
たたむ



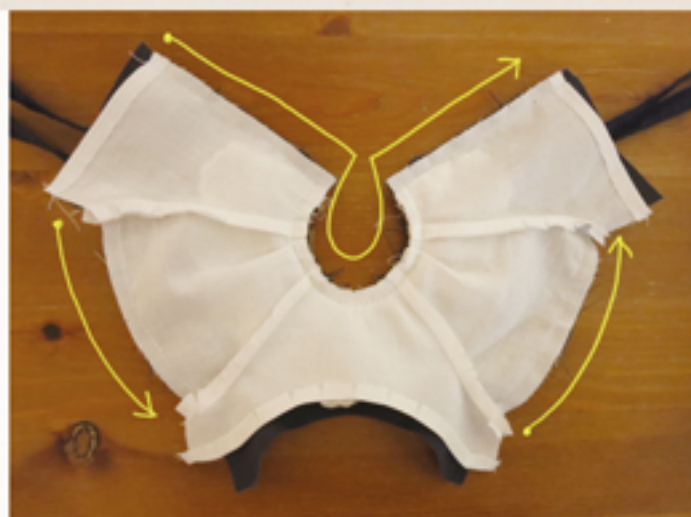
裏地：袖のギャザーはタックにしてたたみ、他は同様にぬい合わせます。ぬいしろは表地と逆方向（袖側）に倒し、袖口とウエストも出来上がり位置にアイロンで折り目をつけておきます。

3



レース衿を作りギャザーをよせて表みごろの表面に合印を合わせてピンでとめて、ぬいしろ0.5cmでぬいつけます。ギャザー糸はまだ抜かないでおきます。

4



裏地を中表に重ねて、後ろみごろの後ろ端とえりぐり、袖口をぬい合わせ、ぬいしろのカーブに切込みを入れ、袖口と衿ぐりのぬいしろは半分くらいにカットします。※脇はまだぬいけません

5



ウエスト部分から表に返し、アイロンをかけて形を整えます。なるべく裏地が表から見えないように、少し控えてアイロンをかけると良いです。

6



裏地側から見たところ。脇のぬいしろは出しておき、表地のウエスト部分のぬいしろもカーブに切込みを入れ、出来上がり位置をアイロンで折っておきます。

7



衿レースのえりぐり部分を小さい針目でなみぬいして、レースが浮かないように落ち着かせます。(ミシンでステッチを入れてもOKですが、目立たせたくないで今回は手ぬいで入れました。)

8



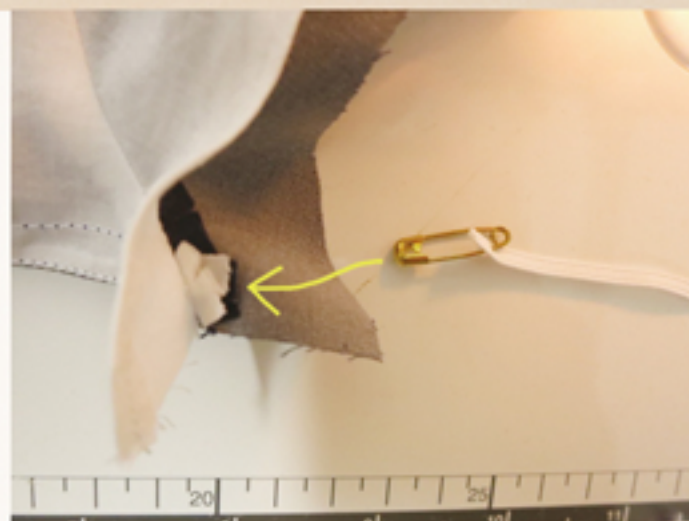
衿ぐりにステッチが入った状態です。

9



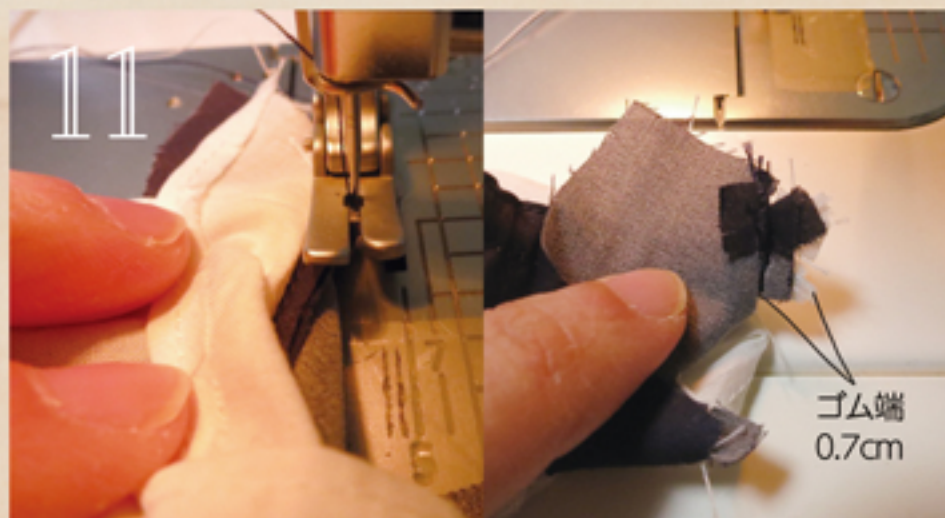
袖口にコバ+0.7cmステッチを入れ、ゴムを通す部分を作ります。糸調子を確認して、ミシンの上糸と下糸をそれぞれ表地と裏地の色に合わせると良いです。ゴムを通すので両端は開けておきます。

10



脇のぬいしろをめくり、9で入れた2本のステッチの間に、ゴムを通します。小さな安全ピンをゴム端に付けると通しやすいです。

11



ゴムの端は袖付けのぬいしろと重ねて、最小の針目のミシンで3~4回返しぬいをして抜けないように止めます。このステッチはゴムとぬいしろ部分だけにかけるので、表には見えません。

12



ゴムの伸縮だけでは生地きれいにギャザーがよらないので、ゴムを通した部分の生地を指できゅっきゅっと縮めて、細かいギャザーをよせてあげてください。

13



表地、裏地それぞれの脇を合わせて中表に重ねてぬい合わせます。しつけをして、一度に両方ぬわずに、表地と裏地で糸の色を変えて2回に分けてぬうときれいです。ぬいしろはアイロンで割ります。

14



これでフレンチスリーブタイプのみごろが完成です。以降は長袖タイプの97からと同様にスカート部分をつくり、つなげます。

後ろあきリボンの結び方

How to Tie a Bow of Ribbon

後ろみごろのリボンを結ぶ手順です。

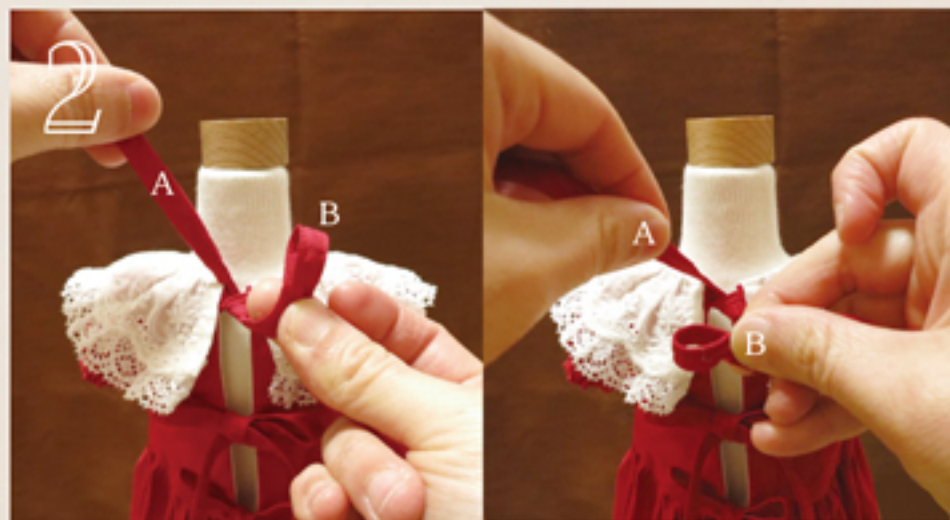
出来れば、スタンドに立たせた状態で行ってください。

スタンドが無い場合は、ドールさんにはちょっと申し訳ないですが、ヘッドの顔面を背中側に向けてから、お布団の上うつぶせに寝かせると、結びやすいです。

転倒させてしまわないように気を付けて、安定した場所で着せ付けを行ってください。



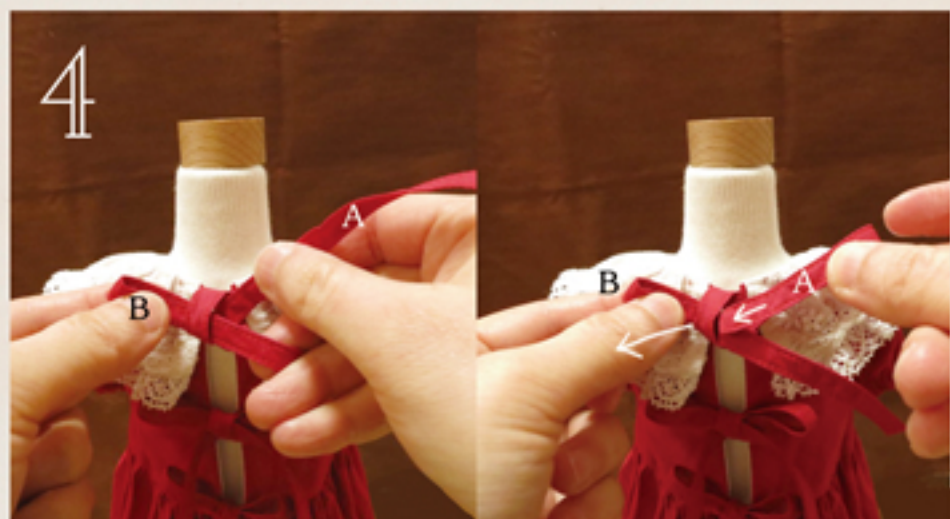
右後みごろから出ているリボンをA、左からのリボンをBとします。Aが上にくるように2本を交差させ、AのリボンをBの下からくぐらせ上方向に出し、Bは下側にくるように、1回結びます。



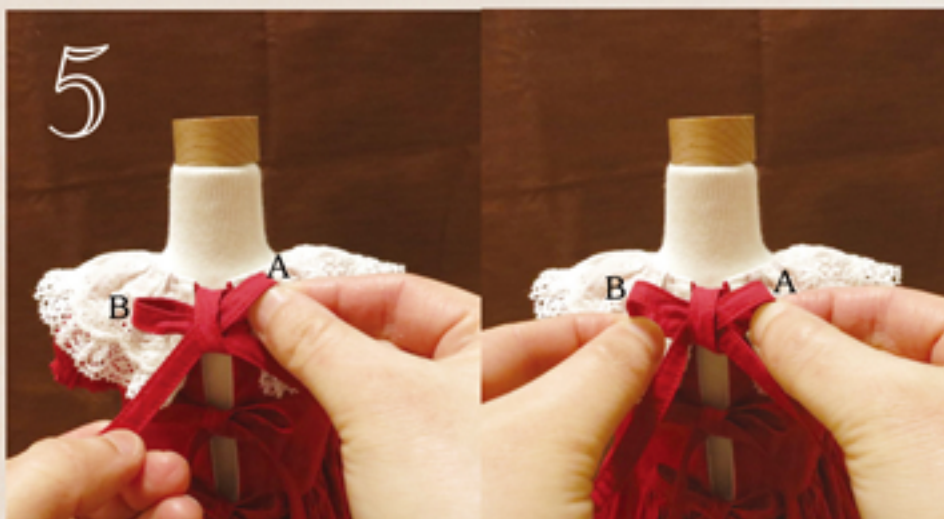
Bのリボンをつまみ、羽になる輪を作り、横に向けます。Aのリボンは、ねじれないようにそのまま真下に下ろします。（このAのリボンは中心のネジメ部分になります。）



Bで作った左の羽とAのリボンを中央で十字型に交差させ、Bをつまんでいる右手で中心部になるAもいっしょにつまみ、Aの端を、矢印の方向に（Bの羽をくるんで下方向裏側から）通します。



そのままAのリボンをひっぱり、中心のネジメ部分を少しゆるめにしぼった状態で、今度はAの端を表から左下に向けてネジメ部分に差し込みます。



差し込んだAの残りの輪で右側の羽をつくり、左右のバランスを見ながら中央のネジメ部分を少しずつ絞めます。それぞれ輪の奥側を引っ張れば、足が短くならず中心のネジメが締まります。



羽と足を引っ張って形を整えます。形は好みですが、中心のネジメはしわにならない程度にしっかり絞め、羽はあまり大きくしすぎず立体的な輪にして、足は自然に下に垂らすのがおすすめです。

基本の用語 memo

冊子の解説に出てくる洋裁用語の意味をまとめました。
正式なものではなく、peta-peta独自の使い方もあるかもしれません
のでご了承ください。
パターン（型紙）上の記号の名称については、リーフレットに掲載
していますので省略します。

【合印（あいじるし）】

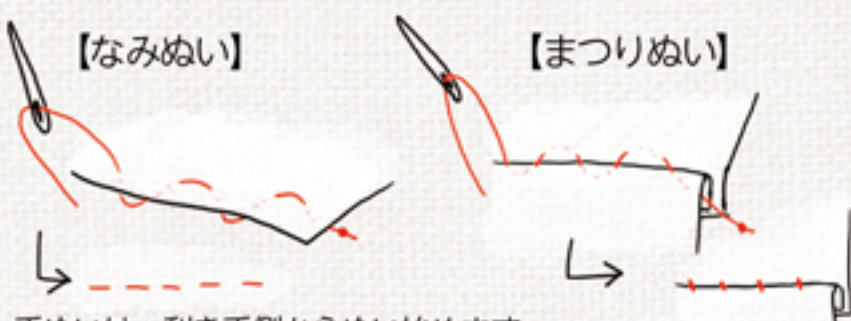
長さをそろえて正確にぬい合わせるためのしるし。合印を合わせてぬうことは、お洋服のパーツを組み立てる基本になります。単純な直線箇所は合印どうしを合わせ、目打ちで押さえながらぬえば、ピン（まち針）でとめる手間が省けます。

【きりじつけ】

ノッチ（ぬいしろへの切込み）で印をつけにくい箇所に、しつけ糸など目立つ色の糸でしるしを入れること。ぬい合わせが終わったら、きれいに抜きます。本来は仕上がり線などに細かく入れるものですが、今回はレースやフリルの合印のみに、目立つ色の糸をなみぬいで1〜2針刺しておくだけの形で、簡易的に入れています。きりじつけの糸の上にミシンステッチが重なると、後できりじつけの糸が抜きにくく、残ってしまうことがあるため、ミシンステッチに重ならない位置に入ると良いです。

【しつけ】

ミシンでぬい合わせる前の仮ぬい。ギャザーの入ったパーツとのぬい合わせなど、カーブや生地のある箇所は、しつけを行うと格段にぬいやすくなり、失敗も防げます。使う糸は、しつけ専用の糸でなくても大丈夫です。後で抜きやすいように、なみぬいで。本ぬいと同じ糸で目立たなければ、無理に抜かなくてもOKです。



手ぬいは、利き手側からぬい始めます。

右利きの人は手ぬい用の糸を、左利きの人はミシン糸を使うと、糸がからまりにくくスムーズにぬえるようです。

【返しぬい】

ミシンでの本ぬいのぬいはじめとぬい終わりは、基本的に必ず、3針くらい返しぬいを行います。返しぬいすることで、ステッチがほどけにくくなります。（ギャザーよせミシンや、2枚重ねの生地がずれないようにするための粗目のステッチなど、返しぬいが不要な時もあります。）

【中表（なかおもて）にしてぬい合わせ】

生地の表面同士がくっつくように表面を中（内側）にして重ねて生地の裏面を外側に見ながらぬい合わせることです。ぬい目のぬいしろ端は裏面側に出て、表からは縫い目のラインだけがきれいに見える状態になります。

【押さえステッチ】 【たたく・たたきつける】

布の折り目が浮き上がるのを押さえるためのステッチを押さえステッチと呼んでいます。折り目が開かないようにするためや、ぬいしろを片側に倒した後、ぴしっとさせるために表側から入れたりします。また、フリルやレースをミシンで上からぬいつけることを「たたく」「たたきつける」と言うことがあります。

【コバステッチ・W（ダブル）ステッチ】

端から1〜1.5mmくらいに入れるステッチをコバステッチ、コバ+0.7cmステッチなど、2本平行に入れるステッチをダブルステッチと呼んでいます。

【ゴム上がり寸法・ギャザー上がり寸法】

ゴムを通して縮まった状態の長さを「ゴム上がり寸法」と呼んでいます。ギャザーも同様で、ギャザー上がり寸法とはギャザーを縮めた状態の長さをいいます。

【ロックミシン・ロック始末】

布の端は切りっぱなしだとほつれてきてしまうので、ロックミシンで端かがりを行います。これをロック始末と呼んでいます。ジグザグミシンでも代用できますが、糸をたくさん使ってしまうので、端かがり専用ミシンが1台あると便利です。

【ぬいしろの切込み】

ぬい合わせ箇所に急なカーブが付いている場合、内径と外径の差が生じているため、ぬい合わせてそのまま表に反そうとすると、ぬいしろが引っ張られたり、たるんだりしますが、切込みを入れてあげることで、ぬいしろが自分で調整できるようになり、きれいに表に返すことが出来ます。切込みの間隔はカーブの大きさによりますが、曲線を短い直線数本に分けるような感覚で入れると良いです。このとき絶対にぬい目は切らないように、ハサミの先を使って、ぬい目ぎりぎりまで入れます。

【ぬいしろ幅を半分にカット】

ぬいあわせた後で表にひっくり返す箇所は、ぬい合わせ後、ぬいしろ幅をカットして厚みを減らすことで、すっきり仕上げる事ができます。衿（えり）や・袖（そで）のカフスなどのぬい返し部分によく使います。ただ、細くするほど強度は弱くなるので、強く力がかかる部分は切り落とさない方が良いでしょう。一度切ったらやり直しができないので、必ずぬい間違いがない事を確認してから切ります。

【アイロンで割る】

2枚ぬい合わせたぬいしろを、端から両側を開いて割る事です。ぬいしろの厚みが分散され、平らに仕上がります。ぬいしろ端をロック始末にする場合は、ぬい合わせる前に1枚ずつロックミシンをかけておく必要があります。



【ぬいしろを片側に倒す】

ぬいしろを割らずに2枚とも同じ方向に倒すことです。厚みが出ますが、割るよりも丈夫に仕上がります。また布端をロック始末にする場合に、ぬい合わせ後に2枚まとめてかけられる利点があります。表地と裏地が重なる場合、同じ箇所の倒し方向を互い違いにすることで、厚みを分散させて平らに仕上げる事ができます。

